

C市 ○○小学校における 特別支援教育コーディネーター 複数による分担制

《C市○○小学校 校内委員会 構成メンバー》

学校長・教頭・教務主任・生徒指導主事・養護教諭・教育相談担当・特別支援教育コーディネーター
(場合により、対象児の学年主任・担任・支援員・スクールカウンセラー)

特別支援学級担任が 単独で行っていた時には…

- 特別支援教育について専門性がある。
- △学級担任であるため、対象児や全校児童の生活、授業態度など、実態把握のための参観がしにくい。
- △支援員や担任等と打ち合わせをするなど連絡する時間確保が難しい。

よりよい
連携のため
の工夫

特別支援学級担任 と 生徒指導主事 の 2人制にすることで…

- 専門性を生かした研修企画や相談ができる。
- 全校児童の実態掌握がしやすい。また、複数の目で確かめられる。
- 分業できるので、より効率的に報告・連絡ができる。

《分担の例》

(専門性を生かした分野)

- ・対象児の保護者と懇談
- ・対象児のアセスメント実施
- ・(主に新就学児の)保護者の相談窓口
- ・支援員や担任と具体的な支援方法の相談
- ・医療機関の斡旋・連携
- ・個別の支援教育計画作成に関する相談
- ・職員研修の企画、運営等



特別支援学級担任

(渉外や情報収集、報告・連絡を中心に)

- ・ケース会議の開催
- ・幼稚園・保育園との連携
(新就学児の情報収集)
- ・保護者の相談受付及び担当者紹介
- ・新就学児の保護者への啓発
- ・とりだし支援の担当者割り当て
- ・支援員やスクールカウンセラー等への報告、連絡、調整
- ・職員への連絡等



生徒指導主事や教頭など